

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和6年12月12日 発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	46週	47週	48週	49週	警報レベル		注意レベル
	11月11日 ~ 11月17日	11月18日 ~ 11月24日	11月25日 ~ 12月1日	12月2日 ~ 12月8日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ#	2 0.67	7 2.33	9 3.00	12 4.00	30	10	10
新型コロナウイルス感染症#	13 4.33	16 5.33	14 4.67	24 8.00	-	-	-
RSウイルス感染症	0 -	0 -	0 -	2 1.00	-	-	-
咽頭結膜熱	0 -	0 -	0 -	0 -	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0 -	0 -	2 1.00	2 1.00	8	4	-
感染性胃腸炎	8 4.00	8 4.00	10 5.00	13 6.50	20	12	-
水痘	0 -	2 1.00	2 1.00	2 1.00	2	1	1
手足口病	2 1.00	12 6.00	16 8.00	5 2.50	5	2	-
伝染性紅斑	0 -	0 -	0 -	0 -	2	1	-
突発性発しん	0 -	2 1.00	1 0.50	1 0.50	-	-	-
ヘルパンギーナ	0 -	0 -	0 -	0 -	6	2	-
流行性耳下腺炎	0 -	0 -	0 -	0 -	6	2	3
眼科定点	急性出血性結膜炎				定点設定なし		
	流行性角結膜炎				定点設定なし		
基幹定点	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)				定点設定なし		
	無菌性髄膜炎				定点設定なし		
	マイコプラズマ肺炎				定点設定なし		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				定点設定なし		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)				定点設定なし		
拡張疾患	マイコプラズマ肺炎(小児科)				7 3.50		
	川崎病				0 -		
	不明発疹症				0 -		

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況)

◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	○	-	-
備考	溶血性レンサ球菌感染症		

*「1.発生動向」の解釈について

- ・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
- ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
- ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 栗原支所より

【定点把握対象疾患】

- ・インフルエンザの発生が増加傾向です。
- ・新型コロナウイルス感染症の発生が増加傾向です。
- ・感染性胃腸炎は横ばいです。
- ・水痘発生は継続しています。
- ・手足口病は減少しています。

【集団発生情報】

新たな集団発生の報告はありません。

【感染症コラム】

～HIVの感染確率と新しい概念、U=U～

- ・HIVは性行為による感染が最も多く、コンドームなしで挿入による性行為(膣性交、アナルセックス)を行った場合、感染の確率は0.1～1%くらいと考えられています。
- ・母子感染は、妊娠初期のHIVスクリーニング検査、妊娠中の母の抗HIV療法、選択的帝王切開などで0.5%未満に減らすことができます。
- ・1回の針刺し事故でのHIVの感染確率は0.3%と、B型肝炎やC型肝炎に比べ1/10-1/100であり、HIVは感染しにくいウイルスと言えます。
- ・HIVに感染している人が治療によりウイルス量を抑制できている場合、上記の感染確率はさらに低くなります。
- ・多くの科学的根拠にもとづく新たな概念にU=U (Undetectable=Untransmittable:「治療していれば感染させない」)があります。
- ・U=Uとは、抗HIV療法により血中のウイルス量が200 copies/mL未満の状態を6ヶ月以上維持している状態のHIV陽性者は、他の人に性行為を通じてHIV感染させることは一切ない、というメッセージです。差別偏見、HIV検査受検への不安・恐怖の低減につながると期待されています。

(コラム提供:やまと在宅診療所栗原の土屋院長先生)



感染症情報 ←



性感染症検査 ←

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
☎0228-22-2117 📠0228-22-7594
HP:https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html